一体的な充実に向けた４つの「教師の出番」

出番1　学びがいのある学習課題にする

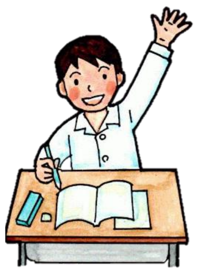
研究成果報告書
P18、P19

児童生徒が課題を自分事にし、主体的・対話的に学習に向かえるように・・・

❶ 自分事になる学習課題を設定する

深く考え、自ら解決したくなる	集団で解決する必要がある

の2つの要件から、学習内容や児童生徒の実態に応じた適切な課題を設定する。



❷ 見通しをもつ活動を充実する

学習対象との出合わせ方を工夫し、児童生徒一人一人が、学習の目的やゴールを明確にし、解決に向けた見通しをもつことができるようにしかける。

出番2　自己選択･自己決定のある学習にする

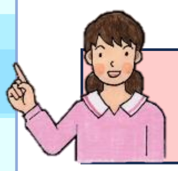
研究成果報告書
P20、P21

課題を自分事にした児童生徒が、課題解決に向かって、主体的に学習を進めていくことができるように・・・

❶ 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる学習環境を整える

・学習教材	・解決方法	・表現方法
・道具	・学習形態	・学ぶペース　　など

❷ 何をどこまで委ねるかを見極め、見取ったことをフィードバックする



出番3　必要感のある協働的な学びの場をつくる

研究成果報告書
P22、P23

個を生かす協働的な学びの場となるように・・・

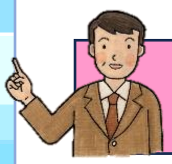
❶ 意図的、計画的に協働的な学びの場を位置づける

(ア)個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場
(イ)教室の中の多様性を生かし、学びを深めるための協働的な学びの場

❷ 児童生徒同士の交流によって学びが深まっていくように、ファシリテートする

・**違いや多様な考え**を意識できるようにする
・話し合う**目的や視点**を明確にする
・思考を**可視化**する
・**問い返し**のある学び合いにする
・**目的に合った小集団**で学べるようにする　　　　など

・児童生徒に「**語らせ**」、教師が「**つなぐ**」



出番4　意味のある振り返りにする

研究成果報告書
P24

児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるように・・・

❶ 見通しや探究の場面で、立ち止まって考える場を設ける

❷ 振り返りの視点から、自分の学びを価値付ける場を設ける

〇学習内容　　〇学習過程(学び方)　　〇自己の変容・課題の発見